

高鍋町教育研究所

I	研究主題及び副題	11 - 1
II	主題設定の理由	11 - 1
III	研究の目標	11 - 1
IV	研究仮説	11 - 1
V	研究の全体構想	11 - 2
VI	研究組織	11 - 2
VII	研究の実際	11 - 3
1	防災教育年間計画作成に向けて	11 - 3
(1)	講師招聘による研修	11 - 3
(2)	各学校の防災教育年間計画表の作成	11 - 3
(3)	避難訓練の在り方	11 - 3
2	防災教育の教育の視点を取り入れた授業実践	11 - 4
(1)	小学校における実践（学級活動）高鍋西小学校1年生	11 - 4
(2)	小学校における実践（道徳）高鍋東小学校4年生	11 - 5
(3)	中学校における実践（国語科）高鍋西中学校1年生	11 - 6
(4)	中学校における実践（学級活動）高鍋東中学校1年生	11 - 7
3	アンケート調査	11 - 8
(1)	目的・調査概要等	11 - 8
(2)	結果・考察	11 - 9
VIII	研究の成果と課題	11 - 10
1	研究の成果	11 - 10
2	今後の課題	11 - 10

【引用・参考文献】

【研究同人】

I 研究主題及び副題

地震・津波災害から命を守り、たくましく生きる児童生徒の育成
～状況に応じて自ら考え、判断し、主体的に行動する力を育てる指導を目指して～

II 主題設定の理由

平成23年3月11日に起きた東日本大震災では、これまでに想定したことがない未曾有の地震・津波で、多くの命が奪われたり広範囲に渡ってライフラインが寸断されたりするなど大規模な災害となった。

被災地と同じように海辺に位置する高鍋町では、災害から町を守ることは重要な課題で、町内では河川の堤防の嵩上げを進めたり各学校の施設面での対策も図られたりしている。また、津波発生を想定した全町的な防災訓練も行われている。

高鍋町の子ども達の命を地震・津波の災害から守る為に、東日本大震災を教訓としながら、本町の実態に応じた「防災教育」に各学校がどのように取り組むかは、喫緊の課題である。

高鍋町は、「歴史と文教の町」であり、豊かな自然や文化にも恵まれている。高鍋町教育委員会では、本年度より「子どもがにぎわう町づくり」の一環として、「防災教育」を地域の学校（コミュニティ・スクール）づくりの取組の一つに位置付けている。

「防災」に関して、町内では地震・津波に関する情報をこまめに伝え、地区によっては、子ども達にも参加を呼びかけて防災訓練を実施している。

各学校でも東日本大震災の被害状況や南海トラフ巨大地震の被害想定を参考にしながら、「危機管理体制の整備」「発生時の危機管理対応」などの防災マニュアルを作成し、避難訓練等を進めてきた。

児童生徒は、真剣に避難訓練に取り組み、集団的な行動もよくできているが、防災に対する意識や自ら危険を判断し、主体的に行動する力は、十分に身につけているとは言えない面もある。

このような課題を解決する為に、これまで各学校ごとに進められてきた「防災教育」の在り方を見直し検討するとともに、意図的・計画的な指導を実践する必要がある。

そこで、本研究所では、高鍋町教育委員会の取組に連動して「防災教育」に取り組むことにした。これまで進めてきた「ふるさと学習」を防災教育の視点から見直すことは、自らの命を守るとともに、地域の安全につながるものである。研究の全体構想を作成し、各学校の「防災教育年間計画」に沿って、「高鍋町小・中学校の防災教育の手引き書」の作成準備や研究授業を実施しながら、避難訓練などにも寄与できるようにしたい。

また、学校・家庭・地域が一体となり、一人ひとりの児童生徒に防災意識を育てることは重要なことである。家庭や地域で被災することも想定し、家族と避難行動や避難場所について話し合ったり、地域の一員として防災訓練に参加したりして、「状況に応じて自ら考え、判断し、主体的に行動する力を育てる指導」を通して「地震・津波災害から命を守り、たくましく生きる児童生徒の育成」を図りたいと考えて、本主題を設定した。

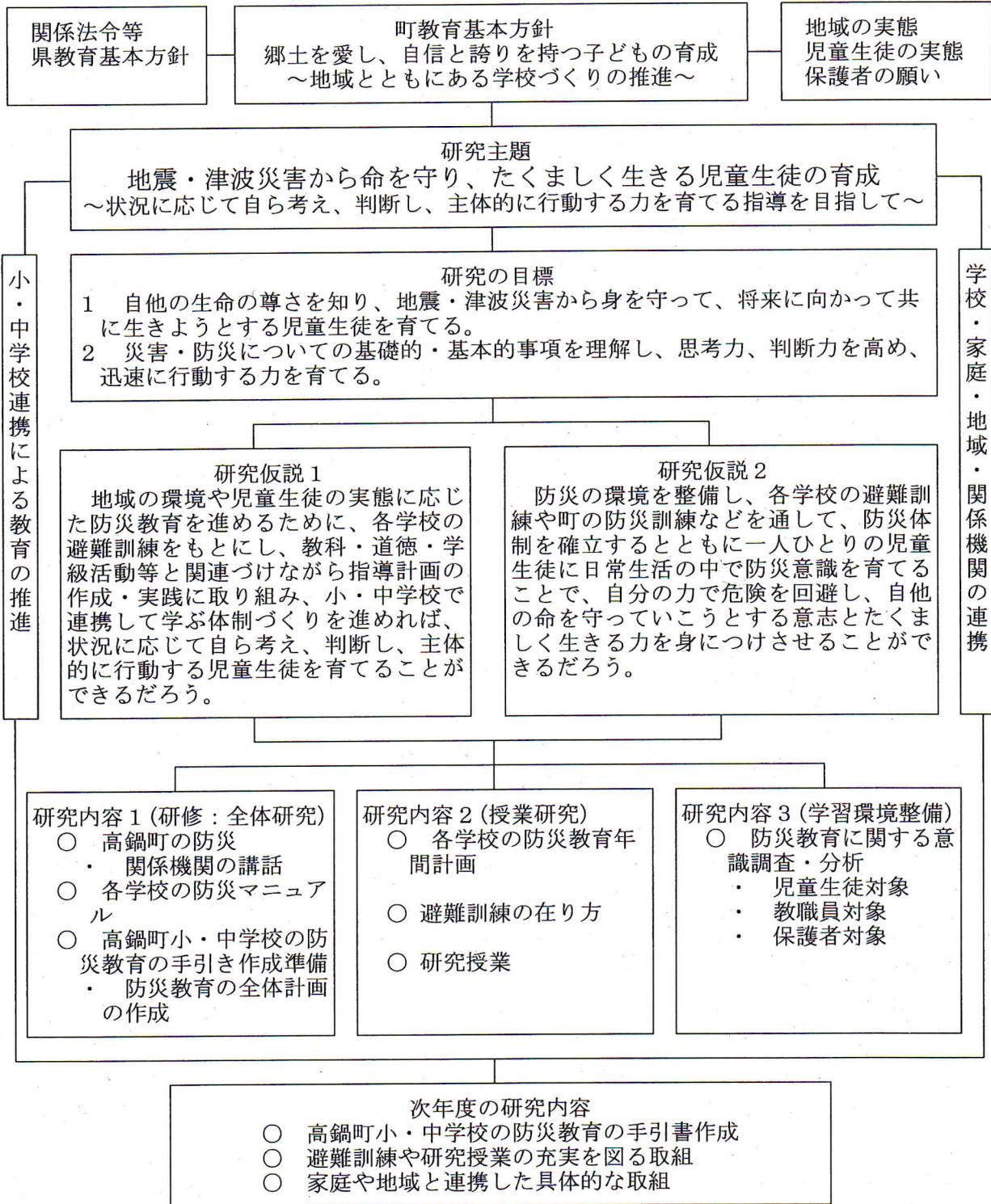
III 研究の目標

- 1 自他の生命の尊さを知り、地震・津波災害から身を守って、将来に向かって共に生きようとする児童生徒を育てる。
- 2 災害・防災についての基礎的・基本的事項を理解し、思考力、判断力を高め、迅速に行動する力を育てる。

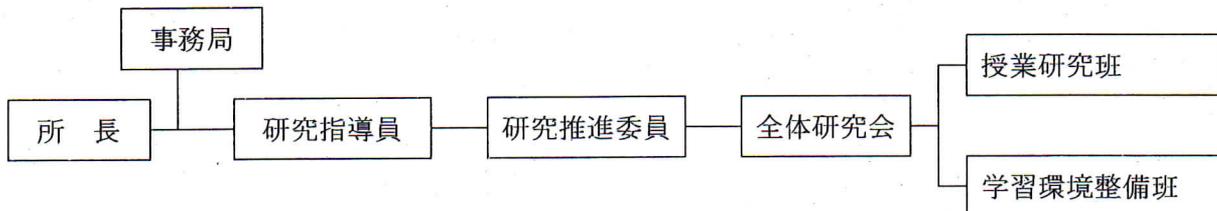
IV 研究仮説

- 1 地域の環境や児童生徒の実態に応じた防災教育を進めるために、各学校の避難訓練をもとに、教科・道徳・学級活動等と関連づけながら、指導計画の作成・実践に取り組み、小・中学校で連携して学ぶ体制づくりを進めれば、状況に応じて自ら考え、判断し、主体的に行動する児童生徒を育てることができるだろう。
- 2 防災の環境を整備し、各学校の避難訓練や町の防災訓練などを通して、防災体制を確立するとともに一人ひとりの児童生徒に日常生活の中で防災意識を育てることで、自分の力で危険を回避し、自らの命を守っていこうとする意志とたくましく生きる力を身に付けさせることができるだろう。

V 研究の全体構想



VI 研究組織



Ⅶ 研究の実際

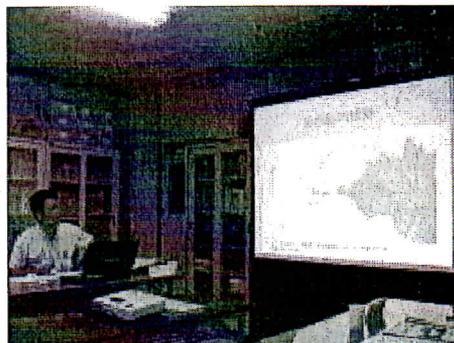
1 防災教育年間計画作成に向けて

(1) 講師招聘による研修

ア 講話 高鍋町総務課「高鍋町における災害対策と今後の課題」

町の防災の取組について、研究員自身の理解を深めると共に、関係機関と学校・家庭及び地域間の連携や組織の在り方を学ぶ為に、町総務課より講師を招いて研修を行った。以下の講話内容及び協議で研修を深めることができた。

- ・ 町の津波浸水想定とその対策の現状
- ・ 町内の学校及び地域における避難訓練の在り方
- ・ 災害を未然に防ぐ為の施設面の充実と町民の意識



【講師による「高鍋町地勢」の説明】

緊急時の備蓄、学校や地域における避難訓練の取組状況等に関して情報を交換することもでき、それ以降の研究推進や研究授業の構想に役立てることができた。

イ 報告 県教職員被災地派遣事業参加者「夏休み学校サポート活動」

平成 23 年 8 月に宮城県山元町に派遣された町内小学校教諭が資料をもとに、以下の内容を中心に報告を行った。

- ・ 当時の被災地(被災した学校・地域)の状況
- ・ サポート活動の概要
- ・ 体験・研修してきたことをもとに考える本町並びに勤務校における防災教育の課題

被災した現地の教職員や子ども達の様子・声も聞くことができ、本研究所の取組や各学校における防災教育の取組への意識を高めることのできた大変有意義な研修だった。



【現地で撮った画像を用いての報告】

(2) 各学校の防災教育年間計画表の作成

ア 高鍋町の実態把握

町内 4 校における防災教育の実態を把握するために、各校の防災教育に関する年間計画を一つの表にまとめた。表を作成するに当たっては、各校で作成された防災マニュアルに掲載されている防災計画の表を参考にした。

イ 「防災教育年間計画表」作成目的・活用の仕方

各校で防災教育に関連する学習がどの時期にどのような内容で行われているかを把握することで、各校の取組について情報交換を行ったり、4校で共通実践できる内容を模索したりすることができ、今後の避難訓練や防災教育の方向性を見いだせるようにした。さらに、今後は、発達段階に応じた指導を目指して、計画性及び系統性を考えた年間計画の見直しに活用していきたい。

(3) 避難訓練の在り方

ア 高鍋町の実態

町内 4 校の避難訓練においては、各校が独自の方法で行っている。津波被害を想定した最終避難場所は、4校とも同じで、その避難方法はそれぞれに工夫・改善されている。

さらに、共通理解・実践のもとで事前・事後の指導の充実を図る必要がある。

イ 「防災教育の授業で使えるデジタルコンテンツ一覧」作成目的・活用の仕方

小・中学校の連携を図り、選んだ防災関係資料の中から、児童・生徒の発達段階に応じた防災教育を推進するために作成した。内容や説明を明記することで、避難訓練の事前・事後の指導だけでなく、他の教育活動にも活用できるようにした。

2 防災教育の視点を取り入れた授業実践

(1) 小学校における実践（学級活動） 高鍋西小学校1年生

ア 題材名 地震がおきたらどうするの

イ 本時のねらい

- 地震発生時の身の守り方を知ることができる。
- 地震発生時に学校内の様々な場所で安全で適切な行動がとれるようにする。

ウ 研究主題に迫る視点

- 災害とはどのようなものがあるか画像を使って説明し、災害は防ぎようのない現実的な問題であることを知らせる。
- 地震発生時の行動の仕方を、学校内の様々な場所にいる場面を想定して考えさせ、実際に行動の仕方を訓練させる。
- 地震発生時に落ち着いて行動したことで多くの命が助かった実話を紹介し、実践意欲を高める。

エ 指導過程と児童の実際の様子

(2) 本時の展開 (◎: 研究主題に迫る視点)

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入 (3分)	1 災害について知る。 (地震・津波・火事・台風・・・) 2 めあてを確認する。 じしんから いちを まもろう。	○ 災害は防ぎようのない身近な問題であることを知らせるが、恐怖心を与えすぎないように配慮する。	画像
展開 (30分)	3 地震について考える。 ・地震がおきたらどうなるか。	○ 地震の映像を見せ、大地震発生時の揺れを想像させることで、地震を身近な現実のものとして捉えさせる。	画像
	4 学校で地震が起きたときのことを考える。 ・身を守るための行動の仕方 を当てる。 (教室、図書室、廊下、トイレ、講堂、運動場) ・身を守るための行動の仕方を訓練する。	○ 学校内のどの場所によく行くか考えさせることで、行動の仕方をイメージしやすくする。 ○ 「頭を守る」「扉を開ける」など、大切なキーワードを板書きし、印象づける。 ◎ 教室、廊下で実際に行動の仕方を訓練する。 ◎ 行動の仕方がわからないときは、近くの大人か高学年の人に聞いて行動することも押さえる。	画像 写真 文字カード
終末 (12分)	5 学習をふり返る。 ・ワークシートに記入する。 ・発表する。	○ 地震が起きたときに、自分が気をつけたいことをワークシートに書かせ、学習のふり返りを行う。 ○ 落ち着いて行動することで助かる命があることを知らせ、学習内容の実践意欲を高める。	ワークシート



【導入】



【展開】



【終末】

- 災害の写真を提示し災害の怖さや、地震が身近な問題であることを知ったことで、展開でねらいに迫る活動へつなげることでできた。
- 実際に訓練することで、「頭を守る」「ガラスから離れる」などのキーワードを体感させることができた。
- 授業の感想の中に、「自分の命は自分で守る」と書いている児童がおり、日頃学校で取り組んでいる安全教育が活かされていることを感じることもできた。

オ 考察

- 災害の様子や地震発生時の行動を画像や映像を示しながら説明したことで、児童は高い関心を示しながら学習に取り組むことができていた。時間配分などを考えると資料を精選し、学習を振り返ることにもう少し時間を使ってもよかった。
- 地震が身近な災害であることを実感させた後に地震発生時にとるべき行動を考えさせたことで、真剣に訓練することができており、実践力を育むことにつなげることができた。
- いつ、どこにいても適切な避難行動ができるためには、今後も本時の内容を継続して指導していく必要がある。

(2) 小学校における実践(道徳) 高鍋東小学校4年生

ア 主題名 進んで人のために 4-(2) 勤労

イ 本時のねらい

- 社会生活を営む中で、自分にできることを見つけて積極的に働くことの意義や大切さを知り、社会のために進んで役に立とうとする心情や意欲を育てる。

ウ 研究主題に迫る視点

- 災害の状況を示した写真・その様子に関する話より、地震災害の恐ろしさ・生活することの大変さに目を向けさせる。
- 災害の状況を示した写真資料や読み物資料より、「もし、自分がその場所に居たとすると、どんなことが出来るだろう?」と想像させ、何かできることはあるはずという切迫感のある観点で考えさせたい。
- 東日本大震災で被災した児童の作文を活用した教師の説話を通して、生きること・人の役に立つことの大切さを実感させる。

エ 指導過程と児童の実際の様子

5 学習指導過程

学習活動及び学習内容	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点(児童の反応)	資料・準備
<p>導入 (12分)</p> <p>1 災害により被害を受けた様子・状況の資料を見て話し合う。</p>	<p>○ この写真はどんな状況を表しているか分かりますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな地震の後の被害の様子かな。 <p>○ この写真を見て、どんなことを感じましたか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震は大変怖い。 ・ みんな一生懸命に働いている。 <p>○ 生き残った人々が困ったことはどんなことだろうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食料や飲み水はどうしたのだろう。 ・ 寝る場所はどうしたのかな。 <p>○ もし、自分がその場所にいたとすると、どんなことができるだろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何かのお手伝いをする。 ・ 小学生だから何もできない。 	<p>○ 阪神淡路大震災の被害の様子を表す写真を提示し、話し合わせる。</p> <p>○ 地震災害の恐ろしさ・生活することの大変さに目を向けさせたい。</p> <p>○ 災害の大変な状況下でも、懸命に働き、必死に生きようとしている強い信念に触れさせたい。</p> <p>○ 被害の大きさ・日常生活を送る上でも大変な状況にあることを理解させたい。</p> <p>○ 大したことはできないけど、何かできることはあるはずという観点で考えさせたい。</p>	<p>災害の状況・様子を表す写真</p> <p>災害の概略説明資料</p>
<p>展開前段 (16分)</p> <p>2 「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読んだ話し合う。</p> <p>○ 資料の範読を聞く。</p> <p>○ 心に残った場面を発表する。</p> <p>○ 先生が大便の後始末をしているのを見て「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p>○ 必死で絵本を探し回った「ぼく」の気持ちを考える。</p>	<p>○ 生活することの大変さや「ぼく」の気持ちの変化を感じながら聞きましょう。</p> <p>○ どんな場面が心に残りましたか?心に残った場面を発表しましょう!</p> <p>○ 大便の後始末を黙々とやっている先生を見て「ぼく」の気持ちはどんなか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生は素晴らしいけど、こんな仕事を嫌だと思っていないのかな。 ・ 僕もしくらやけないかな。 <p>○ 泣いている子どものために、必死で絵本を探し、絵本を見せてあげ「ぼく」の気持ちはどんなか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕も何かしなくては。 ・ 僕にできることがやっと思つた。 	<p>○ 範読を聞きながら、場面絵を提示する。</p> <p>○ 場面絵により流れ、「ぼく」の心情の変化をつかませる。</p> <p>○ 心に残った場面を発表させ、その後の話し合いにつなげる。</p> <p>○ 先生に対する尊敬と、先生は嫌だとは思っていないのかも推察させたい。</p> <p>○ 自分がしていないことへの不安な気持ちと後ろめたさも感じさせたい。</p> <p>○ ようやく自分ができる仕事が見つかり、懸命になる「ぼく」の気持ちを十分味わわせたい。</p>	<p>範読 CD</p> <p>場面絵</p> <p>ワークシート</p>
<p>展開後段 (12分)</p> <p>3 人のために働きたい理由を話し合う。</p>	<p>○ 人のことを考えて、活動したい!仕事をしたいと思うのはどうしてですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達役に立ちたいから。 	<p>○ 実態調査も元に、人のことを考えて働きたい理由をワークシートに詳しく記入させる。</p> <p>○ ペア学習により発表を聞き合い、相互評価したり道徳的価値を自覚させたりしたい。</p>	<p>実態調査ワークシート</p>
<p>終末 (5分)</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 東日本大震災で被災した4年生の作文を聞いてみましょう。</p>	<p>○ 生きること・人の役に立つことの大切さを実感させたい。</p> <p>○ 防災意識・道徳的実践力を高め、余韻をもって終わるようにしたい。</p>	<p>CD ラジカセ</p> <p>カセットテープ</p> <p>児童作文</p>



【導入】



【展開前段】



【展開後段】



【終末】

- 高速道路崩壊より地震の被害の大きさ・恐ろしさをイメージさせることがやや無理があった。

- 何かできることはあるはず!の気持ちには十分浸らせることできた。

- 資料の範読を聞かせ、人物の気持ち・場面の状況等を理解させることができた。

- 児童のワークシートに朱書きしたことがその後の発表への自信となっていた。

- 事前の意識調査の活用により、自分の気持ち・思いをよく書けていた。

- ペア学習は効果大で、学び合い・感じ合いの跡を、その後の発表より感じた。

- 被災児童の体験作文は、「防災」を意識させる上で効果大であり、真剣な眼差しで見聞きしていた。

- 被災地訪問の際の資料も合わせて、有効活用させることができ、十分な手立てとなった。

オ 考察

- 終始、防災教育と勤労を意識した。その為に、災害の状況・避難した人々の様子・もしもの時の対応を考えさせたり、進んで人の為に行動すること・常時の諸活動を想起させたりすることを心掛けた。

- 「人の為に頑張りたい理由」は普段考えることではないが、事前の意識調査で書いていたこともあり、自分自身をよく見つめたり今後の決意表明的な内容だったりしてよく書けていた。

(3) 中学校における実践(国語科) 高鍋西中学校1年生

ア 題材名 流れを踏まえて話し合おう

イ 本時のねらい

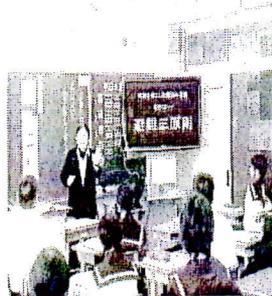
- 必要に応じて質問しながら聞き、自分の考えと比較することができる。

ウ 研究主題に迫る視点

- 話し合いの話題を『避難三原則』とし、厳選した資料を提示することで、話題に興味を持たせ、実際の避難行動を確認させる。
- 自分たちの行動と、釜石の生徒の行動の違いを確認することで、「地震」という身近な災害から自分の命を守るために、オリジナルの「避難三原則」作成に意味があることを実感させる。
- 釜石の「避難三原則」を確認し、「pray for Japan」という動画を通して、世界中の人々の考えに触れることで、自分の考えと比較させ、今後の自分につなげて考えさせる。

エ 指導過程と生徒の実際の様子

学習指導計画		◎: 研究主題に迫る観点	
	学習活動及び学習内容	教師の支援	資料・準備
導 入	1 既習事項を確認する。	○ 話し合いのルールを確認する。	掲示物
	2 写真を提示し、「地震・津波」の災害時の避難行動を考える。	◎ 話題に興味をもつように、資料を提示し、実際の避難行動を確認する。	写真
展 開	3 学習課題を確認する。 話し合いで、オリジナル避難三原則を作成しよう。	○ 生徒とともに学習のめあてを設定する。	
	4 グループでオリジナル避難三原則を作成する。 (1) 作成に向けて、釜石の生徒の資料を提示する。 ① 釜石のハザードマップ ② 三階に突き刺さった車 ③ 釜石の奇跡 (2) グループで避難三原則を作成する。 ① 情報を根拠に自分の考えをまとめる。 ② グループで三原則をまとめる。 ③ 考えを共有する。 (班の意見を黒板に掲示し、発表し合う)	○ 自分たちの行動と、釜石の生徒の行動の違いを確認する。 ○ (2) ②、③の活動について、班で意見を検討しやすいように教材を工夫する。 ○ (2) ①・②については、教師がアドバイザーとなって支援する。 ・相談に応じる。 ・必要に応じて、ヒントを与える。 ・生徒のつぶやきを大切に。	写真 ワークシート (個人・班) 付箋 巻き物 (ヒント)
	5 学習のまとめをする。	◎ 釜石の「避難三原則」を確認する。	カード 動画 pray for Japan
	終 末	6 自己評価する。 ① 関心・意欲をもち、めあてを意識して学習できたか。 ② めあてに迫ることができたか。	○ ①、②について、その達成率を自己評価させる。



【導入】



【展開】



【終末】

- パワーポイントを用いて効果的に資料を提示することで、生徒の興味・関心を喚起させることができた。
- 学習課題を生徒と設定することで、本時の流れを生徒が理解することができた。

- 助言が書かれた巻物を参考に、リーダーシップ・メンバーシップを発揮し意欲的に話し合いに取り組む姿が見られた。

- 話し合いのルールのもと個人の意見が班の意見に反映され、言語活動の充実が図れた。

- 考えを共有する場面では、すべての班が、根拠を踏まえて班の意見を発表することができた。

- 動画は、「相手の考えを聞く」という国語科のねらいと、「防災意識の向上」という防災教育にもつながった。

オ 考察

- 「防災」を国語科で取り上げるにあたって、国語科のねらいから視点がそれないように意識した。そのために、『避難三原則』を話し合いの話題とし、考えの根拠となる情報がそのまま防災知識となる資料を厳選した。そうすることで、国語科で身につけたい力である「書く力」、「読む力」、「話す・聞く力」の向上だけでなく、「防災意識の向上」にもつながるように心掛けた。
- 授業後の自己評価では、「関心・意欲をもち、めあてを意識して学習できましたか。」・「めあてに迫ることができましたか。」というどちらの間に対しても、全員が「達成できた」という結果になった。
- 授業後の感想に、「同じ話題について考えても、人それぞれ考えは違うのだと思った。しかし、自分の考えと相手の考えをまとめることで、より良い考えになるのだと実感した。これで、自分の命も今まで以上にしっかり守れると思う。」というものがあつた。今後、各教科における、「防災教育の在り方」を考えさせられた。

(4) 中学校における実践(学級活動) 高鍋東中学校1年生

ア 題材名 津波から逃げるために

イ 本時のねらい

- 津波から正しく、安全に避難する方法や心構えを理解させる。
- 「自分の命は自分で守る」という意識をもたせ、避難に対しての実践的な態度を育てる。

ウ 研究主題に迫る視点

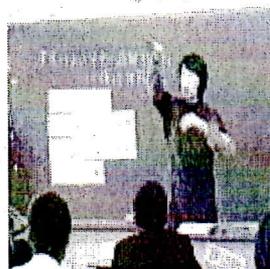
- 「高いところに逃げる。」「自分から進んで逃げる。(率先避難)」「津波のことを知って備える。(避難訓練の大切さ)」「最善を尽くす。」を確認する。
- 避難する際、第2避難所到着が無理な時を考えさせる。

エ 指導過程と生徒の実際の様子

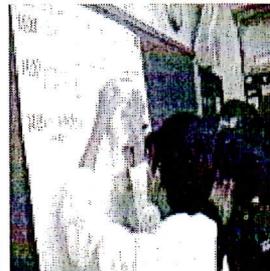
(2) 本時の展開		(3) 研究主題にせまる視点	資料・準備
	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	
導入 ・ 10分	1 釜石の津波映像を見る。		DVD 11 釜石大津波の記録 新視録亭
	2 南海トラフの思被害想定資料を見る。	○ 近い将来、大きな津波が発生する可能性が高いことを紹介する。	
展開 ・ 33分	3 めあてを確認する。 津波から正しく、安全に避難する方法や心構えを理解しよう。		
	4 「津波から逃げる」(9分)を視聴する。 (アニメーション・津波から逃げる人たち)	○ 津波から避難する際のポイントをメモさせる。	DVD 津波から逃げる(気象庁) ・ワークシート
	5 釜石の子供たちがどのように避難したかを確認する。	○ 「高いところに逃げる。」「自分から進んで逃げる。(率先避難)」「津波のことを知って備える。(避難訓練の大切さ)」「最善を尽くす。」を確認する。	
	6 ワークシートを使って実際に避難する際のシミュレーションをする。(校内で温かいときに地震・津波発生という設定) (1) 個人でシミュレーションを考え、その後班で話し合う。 (2) 班ごとに付箋に書いたものを黒板の模造紙に貼る。	○ 第一避難場所と第二避難場所の確認をする。 ○ 県の予測では津波は約20分前から高鍋の海岸に到着する予定であることを知らせる。 ○ 第二避難場所へ到着が無理な時を考えさせる。	・ワークシート ・模造紙 ・津波避難ビル一覧
	7 今日の授業を振り返りまとめを行う。	○ 感想を書かせて発表させる。	・ワークシート



【導入】



【展開前段】



【展開後段】



【終末】

- 釜石の津波映像を見ることにより、生徒たちが津波の恐ろしさを感じ取ることができた。
- 県の南海トラフ被害想定資料の提示により、巨大地震の起こる可能性があることを理解し、津波を自分の地域のこととしてとらえることができた。
- 気象庁が出しているDVD「津波から逃げる」を見せて、釜石の子供たちの避難を参考に考えることができた。避難する際のポイントが理解できた。
- 津波から避難するためのシミュレーションでは、津波避難ビルを参考に、高いところに逃げようとする生徒もいた。
- 授業の振り返りでは「率先避難」「高いところ高いところに逃げる」という意識が生徒の感想からたくさん出ていた。
- さらに、「家族と一緒に避難について考えたい」や「避難する際の他の道も考えていきたい」という発展的な考えをする生徒もいた。

オ 考察

- 指導過程の流れは悪くなかったが、津波についてじっくりと生徒たちに考えさせるにはもう少し時間があつたほうが良かったと思う。できれば2時間で取り組めるとさらに深まりがあつたと思う。
- 学校から避難場所までの避難経路を確認し、避難するまでの過程をシミュレーションできたことは、2月に予定されている津波の避難訓練への意識を高めることになった。
- 学級通信で授業の様子を紹介すると、「家族で避難する際の約束事を決めている、または決めた」などという返信が返ってきた。家族で防災について考えるきっかけになったと考えられる。

3 アンケート調査

(1) 目的

町内小・中学校の抽出した児童生徒・保護者及び教職員に、防災（地震・津波災害）に関わる実態調査を実施することで、より実態に即した研究内容とし、研究推進に向けた問題点と課題を把握することを目的とする。

(2) 調査概要

ア 対象

児童生徒…高鍋東小学校・高鍋西小学校1～6年抽出学級児童 319名
(全児童 1127人)

高鍋東中学校・高鍋西中学校1～3年抽出学級生徒 187名
(全生徒 615名)

保護者…高鍋東小学校・高鍋西小学校1～6年抽出学級保護者 289名
(全保護者 864名)

高鍋東中学校・高鍋西中学校1～3年抽出学級保護者 157名
(全保護者 556名)

教職員…高鍋東小学校・高鍋西小学校教職員 56名 (全職員 75名)

高鍋東中学校・高鍋西中学校教職員 38名 (全職員 64名)

イ 期日

児童生徒…10月上旬 保護者…10月下旬 教職員…11月上旬

(3) 調査内容

児童生徒「地震が起き津波が来そうなとき、高鍋町内でより安全な場所を知っていますか。」他3項目。

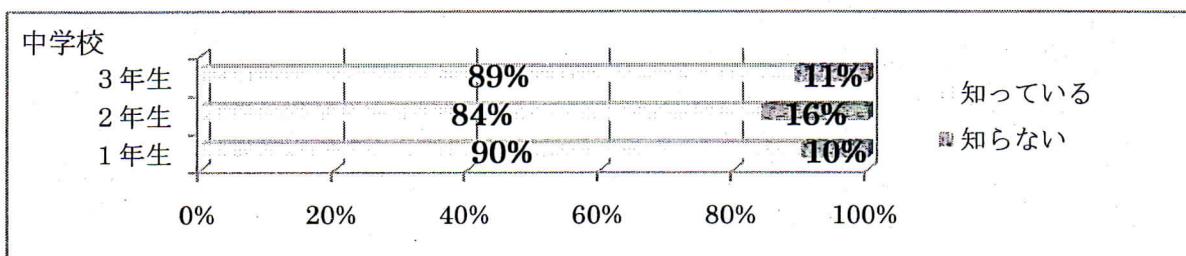
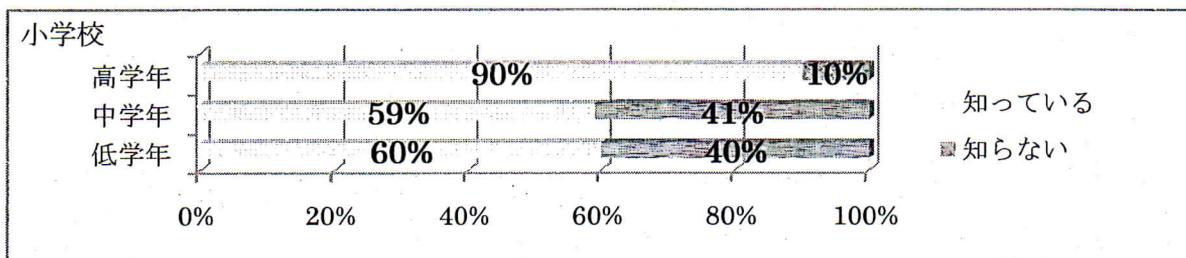
保護者「ご自分の子どもと、避難場所・避難経路を確認されていますか。」他3項目。

教職員「これまでのご自身の防災に対する指導は十分だと思えますか。」他5項目のアンケート調査を実施した。

(4) アンケート調査の結果

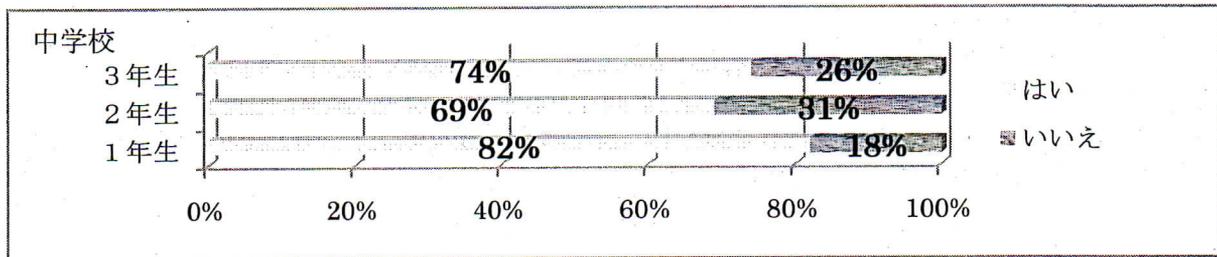
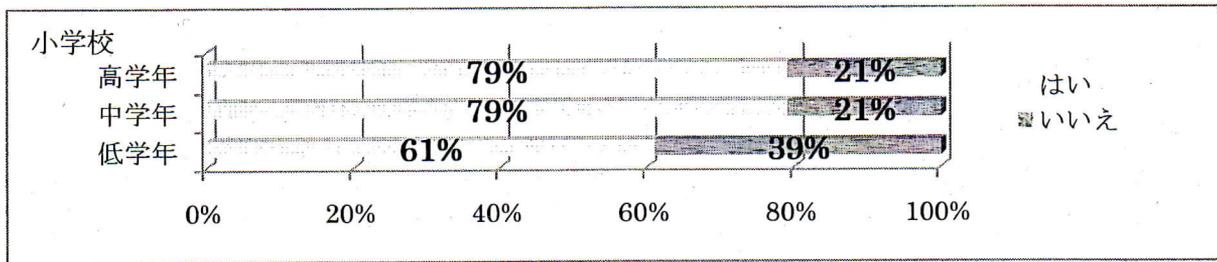
ア 児童生徒

「地震が起き津波が来そうなとき、高鍋町内でより安全な場所を知っていますか。」



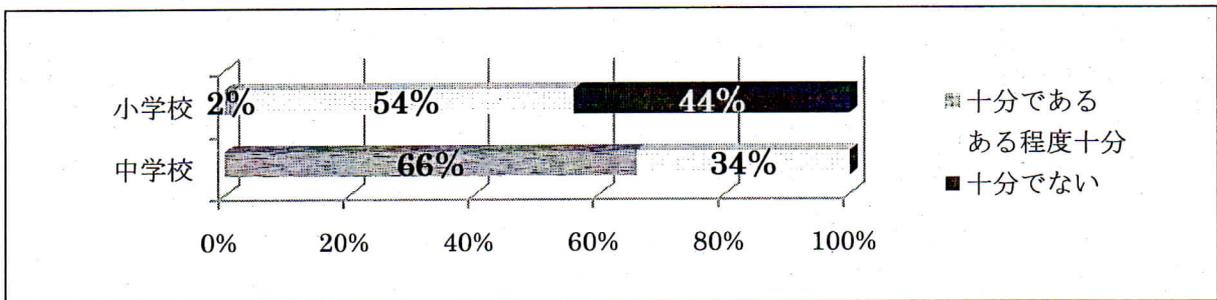
イ 保護者

「ご自分の子どもと、避難場所・避難経路を確認されていますか。」



ウ 教職員

「これまでのご自身の防災に対する指導は十分だと思いますか。」



(5) 考察

「地震が起き津波が来そうなとき、高鍋町内でより安全な場所を知っていますか。」の質問には、小学校高学年以上は9割近くの児童生徒が知っていると答えた。これは「校内での安全な場所を知っているか。」の質問よりも高い数値であった。児童生徒は地震・津波が来たら、「とにかく高いところに逃げる。」という意識があると考えられる。その一方で、小学校低・中学年の児童は、6割程度しか町内での安全な場所を知らない。加えて、小学校低学年の保護者は、「ご自分の子どもと、避難場所・避難経路を確認されていますか。」の質問に「はい」と答えたのは6割にとどまった。これらの結果から、発達段階に合わせた避難の仕方を指導することの重要性とともに、保護者にも子どもと地震・津波について話し合うように啓発していかなければならないことが分かる。また、持出品や備蓄品の準備も2割程度にとどまっているため、それもあわせて啓発していかなければならないと考える。町内4校の教職員のうち、7割以上は防災に関する研修を受けたことがあるにもかかわらず、小学校では4割以上が「自身の防災の指導は十分でない。」と答えている。「様々な場面を想定しての避難訓練をするべきである。」「町内をあげての避難訓練が必要である。」といった意見も多く寄せられた。町内の教職員の防災意識の高さが伺えるとともに、さらなる防災教育の研修が望まれることが分かった。

VIII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 実践的な避難行動を目指して研究主題を設定することで、地震・津波の発生メカニズムや自分の住む地域の地理的条件を学び、災害発生の際、具体的にどう行動すべきかを、小・中学校それぞれの発達段階に応じて、教科・道徳・学級活動の授業や避難訓練を通して指導することができた。
- 町総務課より講師を招き、町の防災対策と今後の課題を聞き、防災に対する実態や情報を把握できた。授業で使用できる資料もあり、小・中学校における指導の充実を図ることができた。また、東日本大震災の被災地派遣者の報告で、現地の状況やサポート活動を知り、防災教育に取り組むための意識を高めることができた。
- 町内小・中学校の防災マニュアルを照らし合わせることで、各学校の「防災教育年間計画」を把握し、今後の避難訓練や防災教育の方向性を見いだすことができた。
- 抽出した児童生徒・保護者及び教職員対象ではあるが、地震・津波に関するアンケート調査をすることで、防災に対する意識や備えについての傾向を知ることができた。

2 今後の課題

- 研究内容を各小・中学校の教育活動にどのように反映させていくとよいかの検討が必要である。各学校の防災マニュアルをよりどころとして、「防災教育年間計画」や「避難訓練の在り方」を教育課程内に無理なく組み込むために、町校長会等に相談し、改善を図るための検討の場を設けて防災教育の充実を図りたい。
- 教職員の防災に関する研修会や町内の防災に関する最新の情報等の入手についてのニーズもあるので対応が急がれる。また、各学校の防災教育に関する資料や情報を共有化し、活用しやすくすることも必要である。
- 防災教育に関する児童生徒の変容を見るために、アンケート調査資料内容の検討をさらに進めるとともに、保護者・教職員のアンケート調査結果を報告し、活用を図っていきたい。
- 学校と家庭・地域・関係機関の連携を進めるために、防災教育に関して具体的な取組内容を設けて実践化したい。情報の発信などにも努めたい。

【引用・参考文献】

- ・ 学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き 文部科学省
- ・ 学校防災マニュアル（地震津波災害）作成例 岡山県教育委員会
- ・ 津波災害に伴う安全対策マニュアル指針 宮崎県教育庁学校政策課
- ・ 釜石市津波防災教育のための手引き 釜石市教育委員会・釜石市市民部防災課
群馬大学防災社会工学研究室
- ・ ～みやぎきっ子の命を守る～宮崎市防災教育手引書 宮崎市教育委員会
- ・ かどがわ黒潮学習の手引き 門川町教育委員会
- ・ 高鍋町立学校防災マニュアル（地震津波災害）作成例 高鍋町教育委員会

【研究同人】

- 所長 萱嶋 稔
研究指導員 幸丸 義信
研究員 小松 誠也 中藤 久美子(高鍋東小) 安井 里子 徳丸 岳(高鍋西小)
藤崎 孝敏 佐藤 淨子(高鍋東中) 小野 賢太郎 後藤 由紀(高鍋西中)